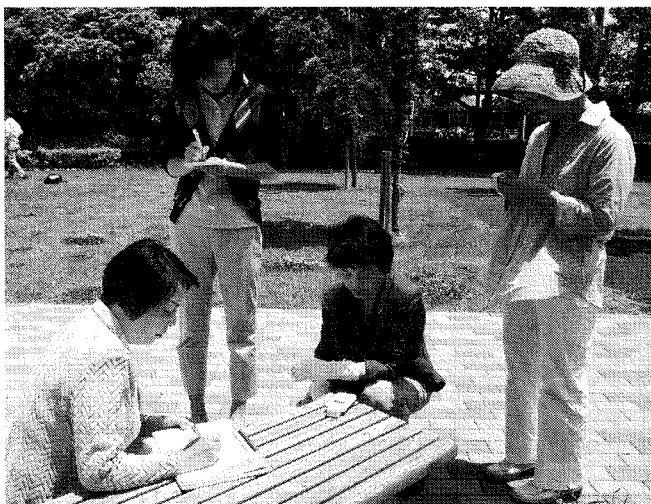


都内128カ所で放射線測定



放射線量をほかる党都議団25日、東京都葛飾区

都に態勢強化を要望

党都議団

日本共産党東京都議団は、専門家の協力をえて都内128カ所で放射線量の測定を実施し、その結果をふまえて、25日、放射線量の測定地を増やすなど測定態勢の抜本的強化を石原慎太郎知事宛てに申し入れました。

申し入れ書は、放射線量測定について、▽都内全域の地上1メートル地点で継続的に、特に放射線量の高い地域、学校、幼稚園・保育園、公園は地表面と土壌を

測定し公開する▽海底、河川、池の土壌の測定▽土壌、水、野菜や魚介類の放射線量、核種別測定の抜本的強化▽豊洲新市場予定地でも測定するよう求めています。

対応した福祉保健局の梶原洋総務部長は、申し入れについて、「考えます」と答えました。

共産党都議団の測定調査は6日～25日にかけて実施。主に地上1メートルの地点で、10秒間隔で10回測った平均値を算出したもの。

東京都健康安全センターの測定（地上18センチ）によると5月の一日平均値は、0.068～0.062マイクロシーベルト、地上1メートルでもほぼ同様の値だとしています。党都議団

議団の調査では、青梅市、あきる野市、練馬区が0.09マイクロシーベルト、江戸川から江東区の湾岸地域が0.1マイクロシーベルト、足立区、葛飾区、江戸川区など東部地域は0.18～0.39マイクロシーベルトなど高い線量の地域が目立ち、地表面でもありました。

日本大学専門講師の野口邦和さんは、共産党都議団に対し、都が地上18センチか空間線量率を測定していないことについて、「放射性核種は地上に降下しており、地上からの距離が遠くなるほど空間線量率が低くなる。東京都は早急に地上1メートルの空間線量率の測定をすべきだ」とコメントを寄せています。